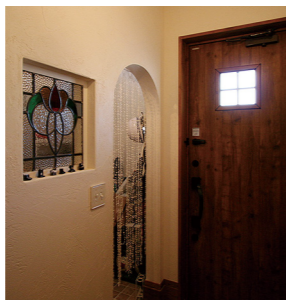




本当にいいものを取り入れたことで、
家族がこの家を楽しんでいます。



Come Home Story

ご入居後の
お宅訪問
No.012
カムホームストーリー
土佐清水市・Kさん家
竣工:2012年12月
設計担当:岡本 理絵



たどり着いた家

人生で2度目となるKさまの家づくり。知識もこだわりもなかった若かりし頃、大工や両親の話を聞くままに建てたという家は、その後毎日のストレスに変わっていったといいます。早くこの家から出たいと強く思いはじめ、考えたのはローコスト住宅の購入か中古住宅を自分らしくリフォームすること。見つけた物件でのトラブルで行き詰っていた時、k+でタイセイホームでは年に1〜2度しかない四万十市の見学会があることを知り、用事があるついでにと足を向けました。そこで出会った家を一瞬で気に入ったという奥さま。その日から「絶対建てたい!」と一気に気持ちが加速。手を伸ばせば届く範囲の金額だったからということも決め手のひとつになり、諦めていたKさまの新築の夢がスタートしていきました。

目に見えないものを身体で実感

「毎日家に帰ってきて、幸せだなあと感じます」と笑顔を見せる奥さま。見た目や雰囲気こだわったという室内には、奥さまの大好きなもののばかりが詰め込まれています。打合せのたびに高知市まで通う苦勞よりも、「自分たちの好きなものを取り入れられる打合せが本当に毎回楽しかったです」と当時を振り返ります。タイセイホームの標準仕様である断熱材のセルロースファイバー、木材などの材料をひとつ一つ調べ、「本当にいいものを取り入れました」という旦那さま。調湿効果や悪性物質までも吸収してくれる漆喰を家全体に使っていることもあり、今となっては悩まされていた喘息がなくなったといいます。Kさま邸では2匹の犬も一緒に暮らしていますが、「前の家と違って今の家では友達に言われなくなりました」と、消臭効果も持ち合わせた漆喰が大きな役割を果たしてくれています。

暮らしの変化

この家で暮らし始めてから、ほとんどやったことがなかったというDIYに興味を持ち始め、ハマってしまったという旦那さま。今ではちょっとした家具をつくるのはお手の物。外構は奥さまの「こんな風になりたい」という要望に応え、お庭や玄関アプローチに至るまで、ほぼ旦那さまご自身が手がけたといいます。広々としたウッドデッキもそのひとつ。日当たりや風通し抜群のKさま邸では、いつもこの場所で洗濯物を干しています。

「どこにいても寒いから家族が家全体を使うようになりました」と話す奥さま。Kさま邸にはもうコタツの出番はなさそう。友達を招くことも増え、「家族で家を楽しんでいます」と話します。打合せが始まる前から“自分たちが家を建てるんだ”という気持ちで床の色や照明まで勉強すること、それには見学会で実際に家を見て体感することだといいます。一生住む家だから時間があるなら慌てないほうがいいと、2度目の家づくりを通しての言葉を預かりました。